

議会だより

平成28年 3 月

No.87

題字は、厚沢部保育所 たんぽぽ組の
なかさとゆうり
中里有李さんです。

あっさぶ



2月8日(月) 館小学校6年生が議会見学



STOP!! ジャガイモシストセンチュウ

～日本一のブランド「あっさぶメークイン」を守ろう!～



(仮称)上里ふれあい交流センター新築基本計画・基本設計業務委託料など4917万7千円を補正

一般会計総額40億9583万円

第4回定例会が12月9日招集され、補正予算等12件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ4917万7千円を追加し、総額40億9583万円となりました。事業事業確定と今後の所要見込額を勘案し、各項目の増減調整が図られています。追加補正された主なものは次のとおりです。

●財政調整基金積立金

(3700万円)

●(仮称)上里ふれあい交流センター新築基本計画・基本設計業務委託料

(619万円)

●介護保険事業特別会計繰出金
(646万円)

●長ネギ収穫機導入事業費補助金
(520万円)

●環境保全型農業直接支払交付金
(195万8千円)

●後継就農奨励金
(150万円)

●北海道土地改良事業団体連合会負担金
(196万4千円)

●(仮称)厚沢部町総合給食センター基本構想業務委託料
(599万1千円)

質疑応答

(要旨のみ)

問 (仮称)上里ふれあい交流センター建設について

答 既存より若干大きい規模のチップボイラーを活用した温泉施設を建設予定で、補助事業採択後に着工となります。

問 総合給食センターの基本構想について

答 建設予定地は厚沢部中学校の斜め向かいで、小中学校の給食以外に幼児、高齢者等への配給も検討中です。運営方法の詳細はこれから検討していきます。

問 後継就農奨励金について、就農者と認定されたのは新規、それともＵターンですか。

答 新規就農者１名、Ｕターン就農者３名です。

国保会計

療養給付費等負担金過年度精算返還金など１３９万５千円を追加し、総額７億６０７０万１千円となりました。

介護保険会計

介護保険システム改修委託料など７６６万円を追加し、総額６億５１３万９千円となりました。

簡易水道会計

１００万円を追加し、総額８００３万２千円となりました。

条例

●厚沢部町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

報告

●損害賠償の専決処分について

質疑応答

(要旨のみ)

問 損害賠償の専決処分の内容について

各会計補正予算額一覧表

会計名	区分	補正額	補正後の額
一般会計		4917万7千円	40億9583万円
国民健康保険事業特別会計		139万5千円	7億6070万1千円
介護保険事業特別会計	保険事業	766万円	6億513万9千円
簡易水道事業特別会計		100万円	8003万2千円

答 町道焼木尻沢線沿いの町有地から道路上に枝がはみ出していたため、トラクター搭載の農薬散布機が枝に引っ掛かり破損しました。賠償金額は、10万9209円です。

選挙

●今回の定例会で、選挙管理委員会委員及び補充員の選挙が行われ、次の各４名が当選しました。

○委員

佐藤征勝さん
鷺田寿永さん
田畑敏幸さん
木村敏彦さん

○補充員

藤八政男さん
近藤良信さん
長峰孝さん
由利昭人さん

議員派遣

●楡山管内議会議員研修会
目的 分権時代に対応した議会の活性化及び議員の資質向

意見書を提出しました

第４回定例会で意見書３件を原案どおり可決し、関係省庁に提出しました。（内容省略）

●給付型奨学金制度の導入・拡充と教育費負担の軽減を求める意見書

提出先 内閣総理大臣、文部科学大臣、衆議院議長、参議院議長

●ＴＰＰ交渉大筋合意に対する意見書

提出先 内閣総理大臣、農林水産大臣

●北海道のすべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める意見書

提出先 北海道議会議長、北海道知事、北海道教育委員会教育長

●函館厚沢部会総会
目的 意見交換、交流
場所 函館市
期日 ２月７日
派遣議員 加藤古志男

上を回る
場所 江差町
期日 ２月４日
派遣議員 全議員

●東京厚沢部会総会
目的 意見交換、交流
場所 東京都
期日 ３月１３日
派遣議員 山崎孝
松村松雄
下川部洋伸

中山俊勝
佐々木宏

まちの議会を傍聴してみませんか

町政はあなたのために

次の定例会は３月８日（火）からです。

〔町長・教育長の行政執行方針は８日午前１０時から、
一般質問は１１時頃からの予定です。〕

手続きは、議会事務局備え付けの傍聴者名簿に住所・氏名を記入だけです。

一般質問

～聞いてみたい、こんなこと～



佐々木議員

質問 1

**TPPに対応した攻めの当
町農業戦略は**

佐々木宏 議員

**国の方向性が確定後、積極
的に進めていきたい**

渋田町長

問

① TPP大筋合意反対の考えは。

② 継続的に取り組める当町の農業構造改革の対策は。

③ 経営意欲を持った担い手への育成・確保の対応策は。

④ 6次産業化の方策は。

⑤ 当町農作物の輸出開拓の可能性は。

⑥ 法人化に向けた政策誘導の考えは。

⑦ 限界集落地域の農地への町単独直接支払制度が必要では。

答

① 影響については不透明な部分がありますが、これを機会に強い競争力を持った産地づくりを目指していきたいです。
② 国は農協改革や企業参入促進などの制度改革を進めており、国の政策が決まり次第推

進していきたいです。

③ 関係機関の協力を得ながら、活性化センターを活用した実践研修、地域おこし協力隊や新・農業人フェアなどを活用しながら新規参入者の確保に努めたいです。

④ 6次産業化を希望する農家からの相談を受けながら情報提供に取り組んでいきたいです。

⑤ 国の施策によりホクレンが中心となり東南アジアでの販路拡大を目指しており、北海道全体の輸出促進の取組みにより、当町の農産物についても可能性は十分にあると考えます。

⑥ 法人化は経営力を強化するための一つの手段と考えており、国も法人化経営に向けた施策を推進していることから、積極的に活用し、農業経営体の育成を進めていきたいです。

⑦ 個人への直接支払は国の責務であり、町単独による制度創設はまだ考えていません。

質問 2

**ふるさと納税で素敵
な過疎の町づくりを**

問

① 当町への寄附金の件数と総

額は。

② 寄附金の活用内容は。

③ ふるさと納税のPR方法は。

④ 寄附者への返礼内容は。

⑤ 企業版ふるさと納税への取組の考えは。

**PR方法を順次改善
しながら、積極的に
行動していきたい。**

答

① 平成27年4月から11月末時点で20件、431万5000円です。また、制度設立からでは、217件で総額215万7000円となっています。

② 次年度事業の財源として活用していますが、平成26年度では当町中学生の国内研修派遣事業に活用しています。
③ ホームページや各ふるさと厚沢部会で宣伝しており、当町広報誌に件数、寄附金額を掲載しています。
④ 寄附金額が1万円以上は5000円程度の返礼で、それ以外の方は半額程度の当町特産品を返礼しています。
⑤ 国が認定した地方創生事業を行う自治体に企業が寄附した場合、寄附金額の3割を控除する検討をしているようであり、今後の動向に注視していきたいです。

質問 1

臨時福祉給付金について

加藤古志男議員

**650人分の予算を措置、
申請者は470人**

渋田町長

問

① 10月31日締切った時点で申請者は何名で、想定した人数の何%か。
② 申請者が少ない場合、締切



加藤議員

日を延長する考えは。
③臨時福祉給付金の支給時の
教訓と課題について

答

①申請者は470人で、給付
金に不足が生じないよう前年
度実績一割増の650人分
で予算措置しており、72.3%
になります。

②申請期間が3か月あり、各
地区11か所の出張窓口を開設
し、町広報9月号に掲載、10
月にも再度町内回覧で周知を
図ったことから予定通り10月
末で申請を締め切っております。

③福祉委員などの協力を得な
がら申請を呼びかけ、さらに
申請者の本人確認も容易に行
えるようにしました。出張窓
口での申請者が思いのほか少
数であり、見直しの検討も必
要と考えます。

再質問

問 昨年度の申請者数は59
0人で、今年の申請者数が少
ないのはなぜですか。

答 去年の支給額が一人につ

き1万円、今年は6000円
ということもあり、申請者が
少なくなったのではないかと
思っています。該当者には、
ぜひ全員手続きをしてほしい
ので、更なる方法を考えます。

質問2 冬期生活支援に ついて

問

①申請期間は。
②この制度を周知徹底させる
ための取組は。

出張窓口を開設で 対応

答

①平成27年11月10日から平成
28年2月9日までです。
②広報11月号で掲載し、チ
ラシを各戸配布してお知らせ
しました。

再質問

問 対象となる灯油の領収書
は10月以降のものとなってい
るが、9月以降にはならないか。

答 9月以降ということでは
応じます。

質問3 教職員住宅につ いて

答

①現在使われている教職員住
宅数と地区ごとの築年数は。
②住宅の修繕要望、苦情の主
な内容は。
③住宅の新築も視野に入れた
住宅の改善計画は。

教職員の快適な 住環境の確保

農業諸問題について

中山俊勝議員

持続的に発展する厚沢部農 業の実現に向け取り組む

渋田町長

標「雇用と産業の創出」への
施策は。

答

①国は、国内農業に及ぼす影
響については公表していませ
んが、攻めの農林水産業への
転換を図るための体質強化を
行うということです。今後公



中山議員

問

①TPP対策についてどのよ
うな施策で対処するのか。
②地方創生総合戦略の基本目

は、10年未満が2戸、10年
19年が2戸、20年～29年が1
戸、30年～39年が21戸、40年
～49年が32戸、50年以上が4
戸です。
②網戸の破損、窓・扉・ドア
の不具合、壁のひび割れ等で
す。
③具体的な新築計画はありま
せんが、総合的に検討し、快
適な住環境の整備に努めてい
きます。

表されるTPP協定の合意内
容を注視するとともに、必要
な施策があれば国に要請し、
関係機関、団体とともに持続
的な発展の実現に向けて、さ
らに取り組んでいきます。

②農業所得の向上、雇用機会
の創出、農業後継者の確保や
生産額の増加を基本としてお
り、具体的な施策は、新規就
農者への支援として給付金の
拡充、農業機械リース補助等
の支援やチップボイラー等普
及による木材利用、再生可能
エネルギーを活用とした冬期
間の農業支援など、本町の基
幹産業である農業の振興が雇
用の創出と人口減少対策につ
ながると思います。

質問 2 新幹線開業に向けて

問

①新幹線開業に向けて具体的な施策は。
②道の駅「あっさぶ」の駐車場対策は。
③道の駅直売所の今年度の売上を考慮し、新幹線開業後の施策は。

施設の充実と
有効活用

答

①広域観光を推進するために道の駅「あっさぶ」での情報発信機能の充実や利用客のための公衆無線LANの整備、観光情報用大型ディスプレイを設置し、さらに電気自動車用の充電スタンド設置を予定しており、今後も施設の充実と周辺施設を有効利用し、利用客の増加につなげていきたいです。
②利用客の増加には、駐車場の拡張が必要ですが、今後の道の駅の活用方法等も含め、用地や財源などの問題について今後さらに検討していきたいです。
③今年度の売上は8000万円を超える勢いで、利用客数も7万人を超えると予想されます。直売所の運営等についても観光協会と検討し、売上向上につなげていきたいと考えています。

道の駅「あっさぶ」

質問 1

国保病院の新改革プランについて

山崎孝議員

国保病院あり方検討委員会で協議中

渋田町長



山崎議員

問 平成27年3月、約7年ぶりに公立病院改革ガイドラインが改正され、公立病院は平成28年度に経営効率化に向けた計画を策定することになるが、国保病院新改革プランは。

答 経営の改善は進んでおりますが、依然として他会計繰入金に大きく依存している状況です。町は第三者の専門的見識者で構成する国保病院あり方検討委員会を設置、全3回の協議を経て報告書が提出される予定です。今後は報告内容を参考に地域医療構想調整会議での協議を進め、来年度の改革プラン策定に取り組

質問 2

総合戦略と総合計画の整合性、総合戦略の具体性について

みます。

問

①総合戦略と総合計画の整合性について。

②総合戦略の具体的な内容は。

検討委員会が

戦略案を答申

答

①総合計画は10年間の町の総合的な振興・発展等を目的とし、総合戦略は今後5年間の基本目標を設定し、人口減少と地域経済縮小の克服を目的とするもので、全てにおいて

整合性があるわけではありません。しかし、子育て支援、産業振興等の共通する部分も多く、整合性が保たれているという捉え方もできます。

②基本目標1「雇用と産業の創出」として、新規就農者への支援、農業生産法人の設立、都市部へのアンテナショップ開設、加工品開発、プレミアム商品券の発行等があり、基本目標2「新しい人の流れ」として移住促進、大学アウトキャンパス誘致、介護専門学校の創設等、基本目標3「結婚・出産・子育て支援」として不妊治療の助成制度拡充、子育て世代への住宅支援、保育サポートの充実等、最後に基本目標4「安心な暮らし、地域間連携」については、多世代交流型コミュニティ施設の形成、総合給食センター設立等があります。

1月26、28日、2月1日に3地区で開催された議会報告会の内容については、今後の臨時号でお知らせします。

委員会活動

総務文教・産業厚生各常任委員会で行った所管事務調査の内容をお知らせします。

○総務文教常任委員会

第2回調査日 10月20日

【第2回調査】 1. 中学校統合に向けた取組 みの進捗状況について

中学校の再編整備に関するこれまでの取組みの経緯、進捗状況について資料説明を受けた。鷗及び館中学校の生徒数は今後10数名で推移し、複式学級編成を繰り返すことが予想される。中学生としては、より大きい集団での学習や部活動を通じて競争心や協調性を育む環境づくりが重要であることから、町内一校の体制が望ましいと思われる。平成30年4月統合に向けこれまで2回の地区説明会を実施しているが、統合にあたっては生徒間相互の多様な交流機会を設け精神的負担を軽減する努力が必要である。今後、開校準備委員会を設置し詳細について検討することである



厚沢部中学校

が、統合にあたって保護者が最も懸念しているのが通学方法で、スクールバスの運行については早期に具体的な案を示し、意見を聴取し不安解消に努めるべきである。また、スクールバスは町単独で購入し、送迎ばかりではなく多目的な教育活動に利用できるように検討すべきである。

2. 旧檜山営林署跡地の現状 と今後の活用について

旧檜山営林署跡地については平成13年度に購入し、これまでレクの森周辺整備基本構想策定委員会やレクの森管理計画策定委員会で検討が進められてきたが、具体的な利活用計画については何も進んでいないのが現状である。当該跡地は、貴重な森林資源を有するレクの森の入り口に位置し、森へのアプローチとしてふさわしい整備が必要であり、今後、レクの森整備計画に基づき総合的及び弾力的な新たな利活用方法を探りながら、併せて道の駅と一体化した効果的な方策の検討も必要である。

3. 指定管理者制度導入施設の 現状について（現地調査を 含む）

指定管理者制度導入施設の「うずら温泉」、「まちなか交流センター」、「種子馬鈴薯選別施設」について資料により説明を受け、「種子馬鈴薯選別施設」については現地確認を行った。

①うずら温泉について
平成20年4月から株シード

との委託契約は現在も継続しており、経費節減が図られたところである。今後は、本格的な人口減少時代を迎え経済環境も一段と厳しさを増す中、集客に向けたなお一層の経営努力を望むものである。町としても民業を圧迫しない程度の集客力アップの支援も必要と考える。また、町との委託契約の下で、経営内容の透明性の確保に町の指導及び監査を徹底すべきである。

②まちなか交流センターについて

平成25年2月に厚沢部商工会と委託契約を締結し、施設の管理状況は良好であり、今後も同様の方式で運営していくのが望ましい。

③種子馬鈴薯選別施設につい

平成26年3月完成の種子馬鈴薯選別施設の現状について、資料により説明を受けた。国の強い農業交付金事業を活用し施設が整備され、町と新函館農業協同組合との間で、平成



種子馬鈴薯選別施設を現地調査

26年4月から10年間の委託契約を締結している。施設は最新鋭の設備で、選別作業は順調に行われていた。町からの委託料は無料で、施設の管理運営は新函館農業協同組合の負担で行われ、生産者が負担する利用料金の2円分を積立し、次期の設備更新等に備えているが、契約期間満了後の費用負担については将来の方向性が定まっておらず、町、農協及び対象農家で十分協議すべきである。

○産業厚生常任委員会

第1回調査日 9月18日
第2回調査日 10月26日

【第1回調査】

1. 新幹線開業に向けた取組について

北海道新幹線の概要、開業に向けた取組状況について資料説明を受けた。平成28年3月26日の開業が決まり、観光客の増加は期待されるが、主な取組状況としては、関係団体により構成される新幹線木古内駅活用推進協議会及び桧山の新幹線観光をみんなで考える会等による観光ルートの

検討、PRイベントへの参加などの広域的な活動が中心であり、町独自の対策は十分になされていない状況であった。檜山の玄関口である当町にとつては、道の駅「あつさぶ」が今後の観光拠点として中心的な場となることが想定されるため、駐車場の拡大、とりわけ大型バスの駐車スペースの確保が必要と考える。それと同時に既存の地域資源を有効活用したPR活動を長期的

に継続していくことが望まれる。また東京都内へのアンテナショップ出店は、開業に向けての情報発信効果が期待され、今後は都心だけではなく、北関東や仙台方面へのPRも有効と考える。

2. 地域おこし協力隊の現状と今後について（現地調査含む）

地域おこし協力隊の活動内容、全国的な定住状況について



地域おこし協力隊活動状況現地調査

ての資料説明を受け、現場での活動状況を現地調査後、協力隊員3名と意見交換を行った。協力隊員は様々に積極的な活動を展開しているが、期間満了後に自立し、当町に定住するには現実的に難しい状況であると感じた。定住を促進させるためには受け入れる側が、ある程度定住に向けた具体的なプロセスを示し、就農、起業等により定住できるように支援する体制が必要である。他市町村と比較したときに、移住定住支援策、住みやすい環境整備が明確に外へ伝わらなければ人口減少の加速に歯止めはかからないと思われる。協力隊員から一人でも多くの定住者が生まれるために課題解決に向けた積極的な取組が望まれる。

【第2回調査】

1. 婚活支援事業について

平成25年度から平成27年度における婚活事業の概要、実施結果及び参加者アンケート結果について資料説明を受けた。今年度実施事業は年4回開催で、参加者を函館、江差等の道南近郊に居住するものを対象としており、過去2カ

年の年1回開催による名古屋、札幌方面の女性を参加者とした事業よりも、参加者同士との交流が継続的に行われる可能性が高いと期待される。しかし、町内の農林商工業者の参加率が低く、このような状況で今後、当該事業を町で継続していく必要性に疑問も残る。本来は商工会、農協等の各青年部などの団体が中心となつて婚活事業を展開し、それを町が側面で支援していくという形が理想的ではあるが、少しでも人口減少に歯止めがかかるように継続的な事業実施を期待する。



婚活支援事業について聞き取り調査

2. 農林商工業における後継者問題について

後継者支援対策、後継者の現状及び課題について資料説明を受けた。農家の後継者数は301戸のうち78人、そのうち未婚が45名であり、商工業では後継者と目される者のうち未婚者が12名であった。過疎・少子高齢化が進み、担い手不足が深刻な状況となっており、特に基幹産業である農業においては、新規就農の確保と育成、農地集約及び農業法人の設立等の検討が望まれる。地域の実態を熟知した強いリーダーシップをとれる人材の育成を行い、新たな体制づくり、これまでもとは異なる発想・方策が、課題解決に向けて必要である。

営状況と今後の取組について資料により説明を受けた。平成25年度より入院、外来患者数及び医業収益についても増加しており、日々の努力の成果が表れてきていると思われる。しかし、町民の多くは函館市や江差町の病院に通っているのが現状であり、経営状況は町の一般財源の繰入に大きく頼っているのが現状であった。原因としては、職員

の接遇を含めた意識の問題が大きいと考えられ、問題点を洗い出し、改革に取り組み、受診率と医業成果の向上を目指していくことが望まれる。地方交付税措置の対象が許可病床数から稼働病床数へと変更されることに伴い、交付税額の減少が想定される中、院長を先頭に全員が一丸となり、経営改革を進めていくことが望まれる。

委員会活動状況

月日	委員会名	出席委員数	活動内容
12	7 議会運営委員会	4名	第4回定例会について
	11 総務文教常任委員会	4名	議会報告会について
	11 産業厚生常任委員会	5名	議会報告会について
1	15 総務文教常任委員会	2名	議会報告会について
	22 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.87号の編集について
	22 産業厚生常任委員会	5名	議会報告会について
	5 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.87号の編集について
2	19 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.87号の編集について

主な議会のうごき

(9月定例会後～12月定例会まで)

月日	主	要	事	項
9	4	第5回町議会議員協議会		議員出席
	29	アンテナショップ「北海道あっさぶ町」オープニングセレモニー（東京都～29日）		議長出席
10	19	平成27年第2回檜山広域行政組合議会定例会（江差町）	浜塚議員、松村議員出席	
	21	国保病院あり方検討委員会		議員出席
	24	札幌厚沢部会（札幌市～25日）	議長、浜塚議員、只野議員出席	
	30	北海道町村議会議長会決算監査（札幌市～31日）		議長出席
11	4	町政功労者等表彰式及び祝賀会		議員出席
	9	平成27年度道南地区森林・林業・林産業活性化推進議員連盟連絡会研修会（七飯町）		議員出席
	10	全国町村議会議長大会（東京都～11日）		議長出席
	12	第6回町議会議員協議会		議員出席
	18	留寿都村議会行政視察（議員控室他）		議長出席
	23	優良従業員永年勤続表彰式（うずら温泉）		議長出席
12	3	夕張市立診療所視察（夕張市）		議員出席
	9	第4回町議会定例会招集（議場）		議員出席



厚沢部町国保病院

3. 国保病院の経営改善について

国保病院の経

平成27年 厚沢部町議会議員出席状況一覧表

(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

委員会			総務文教				産業厚生					議長	
			加藤古志男	浜塚久好	下川部洋伸	佐々木宏	中山俊勝	高田一弥	松村松雄	只野勲	山崎孝	鈴木祥司	
第 1 回 定 例 会	3月4日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3月5日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3月6日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第 2 回 定 例 会	6月24日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	6月25日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第 3 回 定 例 会	9月2日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	9月3日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	9月4日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第 4 回 定 例 会	12月9日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	12月10日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
臨 時 会	第 1 回	3月23日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	第 2 回	5月8日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	第 3 回	7月30日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
各 常 任 委 員 会 活 動 状 況			○				○	○	○	○			
			○				○	○	○	○			
			○	○	○	○							
			○	○	○	○							○
			○	○	○	○							○
			○	○	○	○							○
			○	○	○	○							○
			○	○	○	○							○
				○	○	○						○	○
								○	○	○	○	○	
								○	○	○	○	○	
								○	○	○	○	○	
								○	○	○	○	○	
								○	○	○	○	○	
								○	○	○	○	○	
特 別 委 員 会	予 算 審 議	3月5日	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		3月6日	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	決 算 審 査	9月2日	○		○	○	○	○	○	○	○		
		9月3日	○		○	○	○	○	○	○	○		
		9月4日	○		○	○	○	○	○	○	○		
	議会広報編集	1月15日		○	●			○	○				
		2月4日		○	○			○	○				
		2月18日		○	○			○	○				
		3月23日		○	○			○	○				
		4月8日		○	○			○	○				
		4月14日		○	○			○	●				
		5月8日	○		○	○			○				
		7月13日	○		○	○			○				
		7月21日	○		○	○			○				
		8月18日	○		○	○			○				
10月8日	○		○	○			○						
10月23日	○		○	○			○						
11月12日	○		○	○			○						
議会改革推進特別委員会			2月23日	○	○	○	○	○	○	○	○		
議 会 運 営 委 員 会	3月2日		○	○	○		○	○				○	
	3月23日		○	○	○		○	○				○	
	5月8日			○		○	○			○			
	6月22日		○	○		○	○			○		○	
	7月30日		○	○		○	○			○		○	
	8月31日		○	○		○	○			○		○	
	12月7日		○	○		○	○			○		○	

※統一選挙後の第2回臨時会（5月8日）で各委員の選任など新しい議会構成が決まっています。

○出席 ▲欠席（公用） ●欠席（葬儀、病欠、私用）

申年に入り、はや立春も過ぎた訳ですが、道内はまだまだ白銀の世界であります。

厚沢部が町制施行から53年を迎えますが、53年前の昭和38年の冬にタイムスリップしてみたいと思います。自身少年期の頃、冬が来る度の苦業を今でも鮮明に覚えております。通学時に大きい道路迄出るのに、交互に埋めたくいの間をぬかりながらの歩きで遅刻した事が度々でした。一方、外での遊びも数多くあり、そりすべり・かまくら作り・雪玉投げ遊び・竹スキー、そして一番は落とし穴で、その頃の積雪は今の2倍3倍くらいあったので、簡単に穴を掘り、後から来た人を歩かせるわけですが、いかに上手く作るのかがポイントでした。そりすべりも自家製で、山頂まで運び暗くなるまで何回も滑り、木々の間を通り抜け、衝突しなかったことが不思議でした。当時の言葉で冬しづれが強い年は豊作であったと聞きますが、最近温暖化の影響もあり、強いしづれはありません。が、とにかく豊作である事と早春を願う今日この頃です。（た）

議会広報編集特別委員会
委員長 下川部洋伸
副委員長 松村松雄
委員 加藤古志男
委員 只野勲

編集後記